

提携米通信

2021年5月号・黒瀬農舎



当地・秋田の桜も予想以上に早く咲きました。

桜と菜の花ロード 2021.4.19撮影
奇麗に咲いた桜。でもコロナで人影僅か。

東京では3月20日前にソメイヨシノが見頃だと報じられていましたが、当地ではその頃に福寿草が咲き始め、桜の開花予想はつきませんでした。

しかし、その後急に暖かくなり桜の蕾が膨らみ4月中頃に咲き始めました。こんなに早い桜は初めてです。

5月のゴールデンウィーク中、ずっと桜が楽しめる年もあるのですが、今年はゴールデンウィークが来るよりも

早く、葉桜になってしまいました。

我が村自慢の桜と菜の花ロードは、予想もしない急な開花とコロナの影響で訪ねる人影はまばら。過去の最盛期からすれば人出は十分の一に激減。桜も寂しげな様子でした。

我が家の庭にも50歳近くになるソメイヨシノと30歳近いベニヨシノの2本の桜があります。

老齢化したソメイヨシノは、数年前より花芽の密度が粗くなってきたため、若返り剪定を施しました。

施術後3年を経て、今年には花芽が一杯つきました。

「ソメイヨシノの寿命は短い」とされる中、青森・弘前城の桜が100歳になっても見事なのは「本場りんごの剪定技術の効果」と言われています。

わが庭の桜もこの方法を借用した手当てが効いたようです。これらの桜を観ながら、古い風呂用の灯油ボイラー・アマゾンで仕入れた中国製のサーモスタットやリレーなどで手作りした温湯消毒装置を使って、農薬を使わない今年のお米作りをスターさせました。



庭の桜も若返りました。2021.4.20撮影
青森のりんご剪定技術導入の効果テキメン。

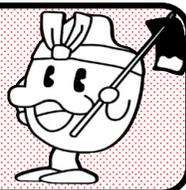
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web: [提携米 黒瀬農舎](#) [検索](#)

★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。
変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までにご連絡下さい。

★お米のご贈答利用も宜しくお願いたします。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため田圃や倉庫作業、外出の時は留守番電話対応となります。ご了承願います。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性があります。迷惑メールやメールの設定をご確認下さい。

ほとんど中古材料ばかりの大型鳩胸催芽機完成！

今年冬の製作作品は、前号で紹介したように幾つもあります。その中の一つの傑作「大型種粉催芽機」の手作り状況の一端を紹介します。

ところで、苗作りは、種粉の消毒から始まります。

農薬を使わないため、60～65℃のお湯に10分漬け、直ぐに冷水で冷まします。この工程から「冷水温湯浸法方式」と命名されています。

次に、種をまく直前に、種粉を30℃のお湯に30時間前後浸け、3～5ミリ程度に芽を出させ、



種粉を「鳩胸」状にします。

この装置を「鳩胸催芽機」と呼びます。

この装置の市販品は、価格が50万余り、大きさが1000㍓が最大です。

30年余り前、ゴミ捨て場から夜間電力の温水機のヒーターを拾ってきて、手作りで1000㍓の試作機を作りました。

「成功すれば、もっと大きい物を作ろう。」と思っていましたが、成功したものの忙しくて、そのまま30年使ってきました。

この冬は、時間があつたので、懸案の大型鳩胸催芽機の製作に挑みました。

先ず、鉄材を溶接して骨組みを作り、コンパネを張り、中に防水シートで保水した2000㍓の四角形の催芽用水タンクの製作。

次に、暖房温湯を循環させる大型のポンプの中古をヤフオクで数千円で取得。ヒーターは3相200V/6KWの食品工場のプラントなどで使われる新品を思い切って2万円余で購入。

30℃をキープさせる中古の温度調整用サーモスタット、古いボイラーやストーブの過熱防止のサーモスタット、リレーなどを集めてきてリレーで繋ぎ完成させました。

構造は、ポンプでタンク（催芽タンク）の下から吸水した水（お湯）を、120ミリの角パイプで作った200V/6KWの電熱ヒーターによる加温部を通過させ加温。

次に、その加温水をお湯と種粉を入れたタンク上部からシャワーさせて、常時循環させるという仕組みです。

単に循環加温させるだけでなく、シャワーさせているのが味噌です。その理由は2つあります。

一つは、シャワーさせることで、発芽に必要な水中酸素を常に補給することが目的。

二つ目は、種粉は発芽モードに入ると、発芽熱が発生し、自らの発芽熱によって種粉は自滅します。

これを防ぐため、シャワーによって種粉の自熱発生時のお湯の温度上昇を抑えることが目的です。また、発芽に必要な酸素は、このシャワーだけでは不足しそうなので、10万円程度で市販されている養魚池用の大型のエアーポンプを、これまたヤフオクの中古品を数千円で手に入れ付け加えました。

製作途中で、2000㍓の水を入れて試すと、タンクが膨らみ、補強の角パイプの追加作業が必要になりました。2000㍓＝2トンの重力は予想以上に大きいことにビックリです。

試運転時は、ワクワクした期待感と、不安が交差しますが、これがまた楽しいものです。

市販価格なら百万円近くの機能とはいえ、材料費は全部で10万円近く必要だった上、手間が、鉄鋼作業、木工・防水作業、配管作業、電気配線作業など多岐にわたり、15人分を超えたようです。

種蒔きの5日前に、500Kg余りの種粉と、水を張り、ポンプとヒーターの電源を入れ使ってみたところ、何とか無事に鳩胸状に芽が揃いました。この成功の瞬間の醍醐味はたまりません。

年間で5、6日しか使わない装置ですから、今後長年重宝できそうです。